

小さなお子さんをお持ちの方で、子供がなかなか薬を飲まずに苦労したことはないでしょうか？きちんと薬を飲むことは、早く元気になるための近道です。そこで今回は、『小児への薬の飲ませ方』についてお話したいと思います。

なぜ、子供は薬を嫌うのでしょうか？

「苦い」、「量が多い」、「においが悪い」、「舌触りが悪い」などから薬を嫌う子供が少なくないようです（特に粉薬）。このため、子供の好みや成長に応じて工夫しながら飲ませることも重要になってきます。また、「なぜ薬を飲まなくてはならないの？」という理由から飲まなくなることもあるので、言い聞かせてわかる年齢の子供には、薬を飲む理由をわかるように説明してあげることも大切です。

薬の飲ませ方

【粉薬】

赤ちゃんの時は、少量の水で練って、清潔な指で上あごにこすりつけ、その後に水、湯冷まし等を与えましょう。また、水や白湯に溶いてスポイトやスプーンで与える方法もあります。その場合は、一口で飲める量で溶かすようにしましょう。ミルクに混ぜても飲みやすくなりますが、子供によって母乳やミルクを飲まなくなる場合があるので注意しましょう。

幼児になると、なるべく他のものに混ぜないでそのまま与える習慣をつけましょう。どうしても薬を嫌がり飲めない場合は、ヨーグルトやゼリー、アイスクリームなどの冷たいもの、甘味の強いもの（シロップ、砂糖水、ジュース、ハチミツなど）に混ぜると、苦味がやわらぎ飲みやすくなります。ただし、ハチミツは1歳以下には与えないようにして下さい。ハチミツには、ボツリヌス菌が入っている可能性があります。1歳以下では、体内で処理できないためです。また、薬によっては、食品と混ぜると苦味が増したり、効き目が悪くなったりする場合がありますので、薬剤師に相談するようにして下さい。

【水薬】

乳幼児に最も飲ませやすいお薬です。1回分をスポイトやカップなどで指示どおり正確に取って与えてください。ビンのまま直接飲ませたりすると、正確な量が飲めないだけでなく、雑菌が入ってカビのもとにもなりかねません。

保存期間は、冷蔵庫保存で7日間が目安です。

【錠剤、カプセル剤】

個人差はありますが、一般的に5~7歳位から飲めるようになります。薬によっては、砕いたり、中身を取り出してしまうと効き目に变化があるものや苦味がでるものもあるので、医師や薬剤師に相談して下さい。



【坐薬】

はじめに包装から出して、先のとがった方からお尻に入れて下さい。せっかく入れた坐薬が戻って出てきてしまうこともあるので、入れた後20~30秒間押さえておいて下さい。坐薬は、体温くらいの温度で溶けるようになっているので、挿入時に痛がる時には、先端を指先で溶かして挿入する方法もあります。坐薬を入れる刺激で排便されることを防ぐために、なるべく排便後に挿入するようにして下さい。

~Q&A~

Q. 薬は、いつ飲ませたらいいの？

A. 指示された用法で飲むようにしましょう。多くの薬は食後服用となっていますが、乳児の場合、おなかがいっぱいになると、飲まなかったり、せっかく飲んでも吐いてしまうことがあるので、医師の指示が特にない場合には、ミルクの前に飲ませるのも良いでしょう。

Q. 薬をいつやめたらいいの？

A. 症状がよくなったからといって、勝手に薬をやめてしまうと、病気によっては再び悪化することもあります。決められたとおり、お薬を飲んでください。また、子供の病気は症状が色々変わりますので、似た症状だからといって、お子さんや兄弟に残った薬を飲ませるようなことはしないでください。お薬は年齢、体重や症状に応じて量が決められています。

Q. 薬を吐いてしまったら？

A. 薬を飲んだあとすぐに、ほとんど薬を吐いてしまった場合、錠剤やカプセルでは元の形のまま、粉薬であれば飲んだ直後や明らかに吐いた物の中に確認できれば、吐き気がおさまるのを待って、もう一度飲ませてもかまわないことが多いです。しかし、粉薬の場合は薬によってその吸収のされ方は異なるので、事前に吐いたときの対応を医師や薬剤師に聞いておくのが良いでしょう。

最後に

どうしても薬を飲まない子供がいることは確かです。3歳以上になれば、きちんとお薬が必要な訳を説明してあげましょう。納得できれば飲んでくれるはずですが、そして薬が飲めた時は必ずほめてあげてください。また、薬の飲み方は、好みがそれぞれで異なりますし、機嫌、気分によって左右されることもたくさんあります。そこで日頃からいざという時のためにお子さんの好みを把握して、いくつか薬を飲ませる手段を持っておきましょう。また、薬をもらうときに、粉薬、シロップ、錠剤など飲ませやすいものを医師に伝えるようにしましょう。



